研究だより

秋田県立秋田きらり支援学校
No.2 令和7年10月10日発行

第３回職員研修会を実施しました。前回の研修講義で学んだことをもとに、実際の授業場面を視聴しそれぞれの「見取り」から「ラベルコミュニケーション」を行いました。子どもの行動や発言などから内面を見取る力を深め、授業改善につなげていきます。

【研修会の様子】

〇第１部（Ⅰ・Ⅱ類型所属職員対象）　視聴授業：国語科　小学部高学年Ⅱ類型

〇第２部（Ⅲ類型・訪問部所属職員対象）　視聴授業：国語科　中学部Ⅲ類型

授業映像（一部切り取り）を視聴した後、５～６名のグループに分かれて話合いを行いました。付箋紙を用いて「事実」と「解釈」を書き出しながら、子どもの姿を多角的に捉え、互いの見方を共有しました。その後のアクティブリスニングでは、各グループでの気付きを発表し合い、様々な視点から学びを広げました。

■ラベルコミュニケーションの様子　～多様な視点からの考えを共有し、意見を交換しました～

【参加職員の感想（一部抜粋）より】

〇第１部（小学部高学年Ⅱ類型国語科　授業視聴）参加職員より

・子どもの「できること」だけでなく、取組の過程や工夫に目を向ける大切さを感じた。
・同僚の視点を知ることで、自分の「見取り」が偏っていることに気付いた。
・「事実」と「解釈」を分けることの難しさを感じた。
・今後は、授業づくりに直結する「活用方法」を意識して見取りをしたい。

〇第２部（中学部Ⅲ類型国語科　授業視聴）参加職員より

・子どものつぶやきや小さな動作にも意味があると改めて感じた。
・自分一人では気づかない点を、同僚の意見で広げられた。
・「解釈」を言葉にするのに戸惑った。
・短時間で効率的にラベル（事実・解釈）を整理することや、まとめ方の工夫が必要だった。

【講評】高橋省子副校長

授業者が児童生徒を見取る際にはどうしても先入観が含まれがちだが、今回のラベルコミュニケーションでは、実態が十分に分からない場合でも行動に注目し、「こういう可能性もある」と考えることができるのが良いところだと思う。同じ行動に対しても行動を基に多様な可能性を捉えようとする姿勢が見られた点がとても良く、その重要性を改めて確認することができた。また、互いの解釈を否定せず、認め合いながら学びを深めていく様子に、この研修の意義がよく表れており、成果であったと思う。参加者それぞれが多角的な視点で考え、活発に意見を交わしており、充実した研修となった。

研修を通し、子どもの姿を多角的に見取ることの意義を再確認できました。参加職員の感想から、「事実と解釈をどう分けるか」という難しさが見えてきました。 今後も継続して取り組み、子どもの実態を丁寧に見取る視点を広げていきたいと思います。